ー牧師室からー

地下鉄サリン事件は五千人の被害者を出し、十人が亡くなり今も重症の方がいると聞く。阪神大震災は被災者に胸が痛むが、サリン事件は背筋が寒くなるような事件である。テロは、巨大な力に圧迫された時、唯一の自己主張の方法であるから無くならないと言う人もいる。しかし、国際社会はテロに厳しく多少の犠牲を出してもテロ集団には妥協しなくなっている。当然であろう。テロは狙う対象と主張がはっきりしているが、地下鉄という閉鎖的な場でサリンによる無差別殺傷は、例を見ない非道なやり方である。現代社会の病理を強く感じる。

警察はオウム真理教がサリン事件を起こしたと疑い大捜査をし、報道も限りなく「黒い」と伝えている。宗教は反社会的であってはならないが、権力の介入には反対である。過去の歴史に国家による宗教弾圧は幾多の悲劇を生んだ。つい五十年前、天皇制という国家神道によって苦しめられ、教会では七名の牧師が殺され、又獄死した。信教の自由とは心の中までは誰も、又どんな力も土足で踏み込んではならないという人間の尊厳の「核」である。権力の宗教介入には敏感過ぎるということはない。ジャーナリズムは、最近「第四権力」と言われ、測り知れない力を持っている。松本サリン事件の時、第一通報者があたかも犯人のように伝えられ、多くの人がそう思った。報道は国民をどのようにも引っ張っていける。報道に対して批判のない追従は危険である。それにしてもオウム真理教は全く不可解な団体である。終末信仰、過酷な修行、出家、お布施などはどの宗教でも見られる。宗教には必ず「狂」の部分がある。その「狂」が新しい時代を切り開いたと言える。しかしオウム真理教は「狂」をも越えているようだ。

今まではテロでも毒ガスは使わない歯止めがあった。この歯止めが壊れないように、迅速な犯人逮捕と的確な報道を期待したい。

週　報

１９９５年４月２日　復活前第２主日

巻１６　１号

１９９５年度教会主題

「恵みに生きる」

聖　句　すると主は、「わたしの恵みはあなたに十分である。力は弱さの中でこそ十分に発揮されるのだ」とと言われました。

コリントの信徒への手紙　二　１２章９節ａ

目　標　１．生活を整えて礼拝、諸集会を守る。

２．一人一人が伝道と奉仕を。

日本キリスト教団　横浜港南台教会

〒233 横浜市港南区港南台 7丁目-8-29

電　話　045-833-5323

ファックス　045-833-6616

振　替　00290-4-13994

牧師　秋吉隆雄